

第3回 明日の高梁川を語る会 (議事要旨)

開催日時：平成21年10月16日(金) 14:00~16:00

場 所：倉敷市芸文館別館 2階 203会議室

出席委員： 宇佐美 英司 (岡山弁護士会)
(欠席) 内田 和子 (岡山大学大学院 社会文化科学研究科教授)
(欠席) 片山 勝介 (元 岡山県農林水産部参与)
佐藤 國康 (元 川崎医科大学 教授)
田中 収一 (山陽新聞社論説委員会 委員)
谷口 守 (筑波大学大学院 システム情報学科 教授)
(欠席) 永井 明博 (岡山大学大学院 環境学研究科教授)
名合 宏之 (岡山大学 名誉教授)
(欠席) 西垣 誠 (岡山大学大学院 環境学研究科教授)
波田 善夫 (岡山理科大学 学長)
(欠席) 久野 修義 (岡山大学大学院 社会文化科学研究科教授)
丸山 健司 (日本野鳥の会岡山県支部長)

12名中 7名出席 5名欠席

■議事

スケジュールについて

・意見なし

小田川の付け替え事業について(基本方針における検討内容の説明)

【委員】

- ・トンネル案の概算事業費の中には維持管理等のコストも含まれていると思いますが、単位は合っていますか。高梁川放水路案というのは2兆7000億円ということですが、本当にこれだけの事業費がかかるのでしょうか。

【事務局】

- ・事業費は工事に掛かるものを合計しており、維持管理費は計上していません。地盤勾配が緩いため流速が遅く、トンネル本数が多くなり大きな金額になっています。

【委員】

- ・付け替えにより小田川の水位が下がるということですが、利水には影響ないのですか。

【事務局】

- ・利水への影響ですが、付け替えを行った場合は掘削もするため、小田川の水位が下がるこ

ともあると考えられます。整備計画で具体的に考えていくとなると、それも評価のひとつとして考えるべきかなと思います。

【委員】

- ・内水と外水とでは発生確率が違うと思いますが、発生確率と被害額を掛け合わせた損失額的なものは、内水と外水のどちらが大きいのでしょうか。

【事務局】

- ・小田川では内水が頻発していますが、大改修以後は大きな洪水は生起していません。内水と外水の被害頻度を比較評価はしてございません。ちなみに、B/Cの評価では外水による被害の発生規模を算定して評価します。

【委員】

- ・掘削案はどの程度の深さまで掘削するのですか。また、何キロまで掘るのですか。

【事務局】

- ・掘削は、平常時に水が流れている水面より下は掘らないようにします。掘削箇所は河道の中で土砂が堆積している場所を全川に渡って掘削します。

【座長】

- ・高梁川放水路案は山岳トンネルですね。一般的には1kmあたり50億円と言われていますが、それと比較すると事業費に違いがあります。特殊な構造を考えているのですか。

【事務局】

- ・この案は新幹線橋梁の下にトンネルを通すため、橋脚とトンネルの間隔をある程度確保する必要があります、サイホン方式として深く掘り込みます。そのため、通常のトンネル工事費より多くかかるとして算出しています。

小田川の付け替え事業について(複数比較案の説明)について

【委員】

- ・分流堤案は住民から提案があったということですが、この案を提示した理由を教えてください。

【事務局】

- ・昨年、柳井原地区の住民の方々を対象として、基本方針での検討案をご説明しました。そのときに、住民の方からこの分流堤案の考え方を提示いただきました。

【委員】

- ・柳井原地区での具体的な影響として、漁業や土地利用の問題などは関わってくるのですか。

【事務局】

- ・柳井原貯水池には耕作地があり、畑をしている住民のほとんどは柳井原地区の住民です。貯水池を河道として整備する場合、耕作地がどの程度なくなってしまうのかということを知りたいという意見があり、川幅は200mであることを提示し、整備計画で整備項目のひとつとして検討することについては、ご理解いただきました。

【座長】

- ・貯水池活用案は農地がなくなるため、それを避けるのが分流堤案ですね。分流堤案の一番の問題点は何ですか。

【事務局】

- ・分流堤案において、非常に大きな影響があると思われるのは、新幹線や山陽自動車道の橋梁架け替えです。

【委員】

- ・笠井堰の取水の形態変更について説明をお願いします。

【事務局】

- ・小田川と高梁川の現合流点は笠井堰の位置より上流にあるため、笠井堰は小田川と高梁川を流れる両方の水を受けて取水することができます。しかし、付け替えにより小田川の水が笠井堰に到達しなくなり、影響が出てくると考えています。その対策については、下流で取水施設を考えるなどにより対応可能であると考えています。

【委員】

- ・柳井原貯水池はもとは河川であったことを考えると、貯水池活用案が自然かなと思います。小田川と高梁川を締め切る背割堤はどの程度の強度をもったものでしょうか。

【事務局】

- ・背割堤については、まだ十分な検討はしていませんが、今後、調査・測量・設計を行い、安全な堤防を考えていきます。

【委員】

- ・現状では貯水池の上下流に締切堤があり、洪水が発生しても締切堤があるため貯水池は安全ではないのでしょうか。

【事務局】

- ・上流側の締切堤の高さに相当する高梁川の流量は毎秒 10,500m³です。150年に1回の洪水が発生した場合は、12,000m³/sの流量が締切堤のところに流下します。そうした場合、締切堤が決壊し、柳井原貯水池に水が流れ込みます。柳井原地区の地盤高は下流の締切堤の高さより低いため、柳井原地区は浸水することになります。

【委員】

- ・下流の締切堤は何のために設置されたのですか。

【事務局】

- ・柳井原貯水池は、東西用水組合の貯水池とするために作られたものであり、水を堰き止めるために上下流に堤防を設置したものです。

【委員】

- ・貯水池活用案が環境にも最も優しいだろうと考えられますが、農地への影響を小さくする工夫はあるのではと思います。深く掘ることで川幅を小さくする、一連区間同じ川幅にしない、法線位置を変更する、代替農地を作るなどの考え方もあるかと思います。

【事務局】

- ・川幅を 200m としたのは、小田川の上流の川幅が概ね 200m であること、南山の山の部分を掘削しますが、この山の掘削を必要最小限(140m)にするためには、山より下流の川幅が 200m 必要であることから、概ね 200m 幅の川を作ること考えています。
- ・柳井原貯水池の深みは砂利採取の跡であり、元は平らな河床でした。深みをそのままにしておくと、上流から流れてくる流砂が深みに堆積し、底なし沼状態になってしまう恐れがあり河川利用への影響があると考えました。山を部分的に掘削することで大量の土砂が発生するため、その土砂で深みを埋め土砂の収支を図り、工事費の削減や環境影響への配慮などの利点もあると考えています。

【委員】

- ・土地の面積が新たに増える部分があるので、それをプラスにできないのですか。新たに土地が生み出されるわけであり、評価項目として、面積でプラス面として入れてもいいのではないですか。

【事務局】

- ・土砂で埋め戻した土地は河川区域としては必要ない土地であるため、もとの土地の持ち主に返還することになります。その際に、土地利用について地元の方々の意見を反映できるように相談して考えていくことになります。

【座長】

- ・土地をどうするかは別の問題であるが、面積的なプラス面について考慮するということですね。

高梁川水系の現状と課題、考えられる対応策について

【座長】

- ・河川整備に関する方針については、次回の検討会が目標設定と対応策ということであり、今回の事項も含めてもう一度協議するというところでよろしいでしょうか。

【事務局】

- ・次回は、整備計画の内容の中心となる部分、考え方についてご説明します。さらに、原案をあわせて提示する予定です。

【座長】

- ・次回は今のご説明を基にして、整備計画の内容が提示され、それについて協議するという方針でよろしいですか。それとも、今回出来る限りの意見をいただく方がよろしいのでしょうか。

【事務局】

- ・今回、特に意見をいただきたいのは「段階的に治水目標を達成するための考え方」についてです。この方針に基づいて原案作りを考えております。

【委員】

- ・酒津地点で高梁川が不自然にカーブしていますが、堤防で耐えるしかないのでしょうか。素人目でみても大丈夫なのかなという感じがします。改修の経緯から判断すると、本来は真っ直ぐに倉敷市内を流下していくのだらうと思います。

【事務局】

- ・堤防で守っていくしかないと考えています。現在も 10m を越える高さの堤防が整備されていますが、堤防を安全にしていくということは当然と考えています。また、安全度を増すために、小田川を付け替えて少しでも酒津の水位を下げる効果を狙っています。

【座長】

- ・現在の貯水池は流れがほとんどないのですが、付け替え後の川の姿はイメージされているのでしょうか。

【事務局】

- ・具体的な絵までは作成していません。付け替え後、通常は流水が少ないと考えられるため、魚類の遡上等が可能なように、低々水路的なものが必要になると考えています。

【座長】

- ・時間も過ぎていきますので、意見がある方は事務局までご連絡いただくことにしたいと思います。